

JAの枠を超えた部会の加工用キャベツの安定生産に向けた支援

東近江農業農村振興事務所農産普及課

【普及活動のねらい・対象】

東近江地域における加工用キャベツの契約栽培は、JA 滋賀蒲生町、JA 東能登川、JA 湖東の3JAにより、加工業務用野菜の安定出荷をめざしてJAの枠を超えて連携し、平成28年1月25日に「東近江地域フードシステム部会」を設立するなどにより、平成28年度で約70haと4年間で倍増しています。しかし、平成27年度は、出荷開始が計画より遅れたり、主力品種で生理障害が多発するなどの問題がありました。

そこで、当該部会が加工業務用野菜の産地として発展していけるよう、課題となっていた出荷計画の策定や生理障害対策について支援を行いました。

【普及活動の内容】

今までは、収穫時期が異なる体系であっても、同一の施肥設計と防除体系で対応していましたが、契約期間に安定して出荷するため、収穫時期に合わせて2つの施肥・防除体系の設定を提案しました。

また、種苗メーカーの協力を得ながら品種比較のための実証ほを3JA5か所で設置し、生理障害に比較的強く収穫適期が長い品種の導入を検討しました。

さらに、栽培期間中、JAと連携して現地を巡回し、計画どおりに出荷されるよう栽培管理指導を行うとともに、今年度は害虫が多発したため、防除方法などを掲載したキャベツ情報を作成し、JAを通じ対策の周知を図りました。



写真 加工用キャベツの栽培

【普及活動の成果】

平成28年度の栽培面積は、JA 滋賀蒲生町7.8ha、JA 湖東5.6ha、JA 東能登川3.0haの計16.4haとなり、昨年の11.7haより4割増加しました。出荷時期については、契約に合わせて開始させることが出来ました。今後は、生産数量の確保を目標に支援していきます。

新規導入を検討した品種実証については、関係機関や部会員などとともにほ場巡回し、生育の特徴やデータを生産者と一緒に調査し、情報共有できました。次年度に向けて品種選定の参考とします。

◎対象者の意見

今年は害虫被害が多くて困った。栽培研修やもらった資料から農薬を選定しているがなかなか収まらなかった。毎年課題は出てくるので今後も指導をお願いしたい。

(部会員A氏)